



「海づくり大会」1年前イベント 豊かな海 次世代に

漁船団パレード、稚魚放流

来年11月10日に県内で開かれる「第43回全国豊かな海づくり大会」の1年前イベント「おおいた海博」が4日、別府市の別府国際観光港であった。本番の予行演習を兼ね、式典と海上歓迎・放流行事をした。会場では県内で取れた魚介類の試食や販売もあり、大勢の人でにぎわった。

式典では主催者を代表して佐藤樹一郎知事が「県民総参加で大会を成功に導き、大分の豊かな海を次世代につなげていきたい」とあいさつ。大分高書道部が大会テーマを書道パフォーマンスで披露した。

海上歓迎行事では、大漁旗で飾り付けた漁船団約60隻が別府湾をパレード。一本釣りや底引き網漁など県内を代表する漁法を船上から紹介した。

会場では水産物を振る舞うイベントがあった。別府溝部学園短大はハモを売って、小学生対象の県産魚のつかみ取りも開いた。

(佐藤章史)



①別府湾をパレードする漁船団②マタイの稚魚を放流する関係者③4日、別府市の別府国際観光港、撮影・山戸孝哉

県産ブランド発信の機会

全国豊かな海づくり大会は食卓に安全でおいしい魚を届け続けるため、水産資源の保護管理や環境保全の機運を高めようと全国各地で毎年、開催している。1981年の第1回大会は鶴見町(現佐伯市)の松浦漁港であった。当時の皇太子(現上皇ご夫妻)が来県し、マタイの稚魚などを放流された。県内で開くのは2回目になる。

一途をたどっている。消費者の魚離れも深刻だ。2021年の県内漁業生産量は5万2398トで、第1回大会当時の約4割に落ち込んだ。

(佐藤章史)

大分県は北は瀬戸内海、南は豊後水道に面してアジやサバ、イワシ、エビ類、シラスといった多種多様な魚介類が水揚げされる。ヒラメやマグロなどの養殖も盛んだ。

大会には例年、天皇皇后両陛下が出席される。当日は大分市のいちごグランシアタで式典を開くほか、別府市の別府国際観光港で放流などの行事がある。



記事をよく読んで、問①～⑤に答えましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕 「おおいた海博」の海上歓迎行事、漁船団パレードはどんな内容でしたか？

答え 【 _____ .
_____ 】

〔問②〕 「全国豊かな海づくり大会」が開催される目的は何ですか？

答え 【 _____ .
_____ 】

〔問③〕 「全国豊かな海づくり大会」の第1回大会（1981年）の開催地はどこですか？

答え 【 _____ 】

〔問④〕 水産資源が減少の一途をたどる背景は、どういった理由がありますか？

答え 【 _____ 】

〔問⑤〕 消費者の魚離れが進んでいる理由や、消費拡大に向けた解決策を考えてみましょう。

.....
.....
.....
.....
.....
.....